

<p>教育目標</p> <p>夢中になって遊ぶことを通して 自分の思いを伝え合い 人やものを大切にすることの育成</p>	
<p>年度末の最終評価</p>	
自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <p>令和7年度は、「幸せ空間」「面白空間」から育まれる子どもの資質・能力を探る～夢中になって遊ぶ子どもたちの姿に着目して～を研究テーマに掲げ、教育目標である「心豊かに、主体的に生きる子どもの育成」をめざして保育を推進した。子どもたちが“幸せ”や“面白い”と感じられる環境を構成することで、遊びに自ら関わり、その過程で友達と協力したり、自分なりの考えを深めたりする姿が数多く見られた。特に、環境が子ども同士の対話や探究を自然に生み出す場となり、一人ひとりの主体性や思考力、協同性が育まれていることを実感した。これらの姿は、本園の教育目標に掲げる資質・能力の育成が着実に進んでいることを示している。一方で、子どもたちが夢中になる遊びが生まれる背景には、子どもの発見・気づきを丁寧に受け止める姿勢やそこから生まれる教師の環境構成の工夫や援助が大きく影響していることも明らかになった。そのため、教師間での共有や振り返りの深まり、保育の質の向上など、教師側の学びと連携をさらに進めていきたいと考えている。</p> <p>次年度は、教育目標を基に、架け橋プログラムの更なる充実を目指して、近隣の小学校や保育園との連携接続を進めていきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>翔鸞幼稚園が長年大切にしてきた保育の在り方が、保護者だけでなく、地域の方々や未就園児保護者の皆様にも少しずつ理解され、共感していただけるようになってきていると感じている。子どもたちの生活発表会での姿を見ても、誰かに「させられる」活動ではなく、自ら考え、工夫しながら取り組む主体的な姿が日常的に見られ、その過程で豊かな非認知能力が育まれていることを実感している。こうした翔鸞幼稚園ならではの保育の魅力が、次年度の入園を考えるご家庭にも伝わり、園への信頼や期待につながってほしいと考えている。</p>

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和7年10月28日	学校運営協議会理事
最終評価	令和8年3月9日	学校運営協議会理事

(1) 幼稚園教育（保育の改善・充実）について

<p>具体的な取組</p> <p>・昨年度の研究を通して、子どもたちが夢中になって遊ぶ中で“ときめき”と“ひらめき”が生まれ、探究心につながっていくことが分かった。子どもたちの“ときめき”と“ひらめき”を継続して研究していくことで、子どもたちに“ときめき”と“ひらめき”が生まれるきっかけは一体何なのか？という疑問が生まれた。今までの研究を通して、そのきっかけは『幸せ空間と面白空間』（202</p>

2年無藤隆)) なのではないだろうかという仮説をたて、今年度は研究を進めていきたいと考えている。

- ・子どもたちにとっての『幸せ空間と面白空間』とは、具体的に一体どういうものなのか？また、そこからどのような資質・能力が生まれているのかを具体的に探っていきたいと考えている。
- ・研究保育や事例研修を通して園内研究を深め、保育を振り返りながら、教師の力量を高めていく。また、協議を行う際に、視点をもって協議を進められるようにシートを作成し、活用していく。
- ・昨年度の成果と反省を活かし、近隣の保育園や小学校との架け橋プログラムの充実を図る。特に1年生と生活科と図化工作の教科学習との関係の中で交流を充実させていく。
- ・保護者や関係機関と連携をとりながら、支援を必要とする子どもに対する支援の在り方を検討し、個々の子どもに対する適切な支援を共通理解の下で行い、園全体で継続的に育ちを見取っていく。
- ・幼稚園生活全般を通して、安心感・安定感や親しみをもって人と関わりながら活動できるようにする。(友達や兄弟グループとの関係・教職員と関係・地域や小学校との関係)

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・幼児の遊ぶ姿の変容・週案の反省、園内研究の記録、毎月の子どもの姿・事例検討アンケート項目【子どもの様子】・登園を楽しみにしている ・自分から遊びを見つけて元気よく遊んでいる ・自分でできることは自分の力でやろうとする ・まわりの人に挨拶ができています ・友達や物などを大切にしようとしている ・人の話を聞こうとしている ・自分の思いを話そうとしている ・いろいろなことに興味を持って聞いたり行動したりする ・すごいね、ふしぎだね、えー？やったーなどと感動している ・子どもは相手を意識したり思いやったりしている 【幼稚園や教職員の様子】・幼稚園の教育保育について安心している ・幼稚園は施設、設備の安全や衛生に十分な注意を払っていて安心している ・教職員は明るい笑顔で保育をしたり子どもに関わったりしている ・先生は子どもにメリハリのある保育をしている ・先生は子どもの話をよく聞いてくれる ・先生は保護者の話をよく聞いてくれる ・保護者として子どものことを先生や職員によく話したり相談したりする

中間評価

各種指標結果

- 【子どもの様子】では、「自分から遊びを見つけて元気よく遊んでいる」「色々なことに興味関心を持って聞いたり行動したりする」が「そう思う・だいたいそう思う」が100%、「自分の思いを話そうとしている」「すごいね、ふしぎだね、やったー！などと感動している」「子どもは相手を意識したり思いやったりしている」は「そう思う・だいたいそう思う」が96%「登園を楽しみにしている」が、「そう思う・だいたいそう思う」が97%、「人の話を聞こうとしている」は「そう思う・だいたいそう思う」が86%、「自分でできることは自分の力でやろうとする」「友達や物などを大切にしようとしている」は「そう思う・だいたいそう思う」が82%「まわりの人にあいさつができる」は「そう思う・だいたいそう思う」が72%、だった。
- 【幼稚園や教職員の様子】では、全ての指標において「そう思う・だいたいそう思う」が100%だった。中でも「教職員は明るい笑顔で保育をしたり子どもに関わったりしている」は「そう思う」が100%だった。

自己

分析 (成果と課題)

“ときめき”と“ひらめき”が生まれるきっかけとして子どもたちにとっての「幸せ空間・面白

評価	<p>空間」の研究をしていることで、夢中になって遊ぶ子どもたちの姿を大切に捉えることができ、その中で育ちを教職員だけではなく、保護者にもしっかり伝わっているのだということが分かり成果と考えられる。「人の話を聞こうとしている」「自分でできることは自分の力でやろうとする」「友達や物などを大切にしようとしている」は、3歳児のポイントが低い傾向が見られた。「まわりの人にあいさつができる」は、学年を問わずポイントが低い課題として考えられる。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>3歳児の育ちについて保護者の皆様方にお伝えしながら、理解をしていただけるようにしていきたい。特に「人の話を聞こうとしている」「自分でできることは自分の力でやろうとする」「友達や物などを大切にしようとしている」は、様々な経験を通して、3年保育の中で培われていく力だと考える。まだまだ成長過程であるということを理解していただけるように伝えていきたいと考える。「まわりの人にあいさつができる」は、朝の登園時に親子でしっかりと挨拶ができるように働きかけていきたいと考える。</p>
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>指標の変更は行わないが、「まわりの人にあいさつができていない」の項目に関しては、子どもだけではなく大人の意識を高めていけるように取組を考えていきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>運動会の様子を実際に見たり、日頃の遊びの様子などをパワーポイントで見せてもらったりしていると、子どもたちの育ちが非常によくわかる。それがアンケート結果にも反映されていると思う。子どもたちの人数は少ないが、やらされているのではなく、子どもたち自ら主体的に遊んだり、活動したりしている様子がとても良いと感じる。</p>

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>「登園を楽しみにしている」「自分から遊びを見つけて、元気よく遊んでいる」「自分の思いを話そうとしている」「すごいね、ふしぎだね、えー？やった～などと感動している」「子どもは相手を意識したり思いやったりする方向に発達してきている」の項目に関しては「そう思う」「だいたいそう思う」の回答が合わせて100%だった。「自分でできることは自分の力でやろうとする」「人の話を聞こうとしている」「いろいろなことに興味を持って聞いたり行動したりする」の項目に関しては「そう思う」「だいたいそう思う」の回答が合わせて90%以上だった。「まわりの人にあいさつができていない」の項目では、「そう思う」「だいたいそう思う」の回答が82%、「あまりそう思わない」は9%、「そう思わない」は9%だった。「友達や物などを大切にしようとしている」の項目では「そう思う」「だいたいそう思う」の回答が88%、「あまりそう思わない」は12%だった。</p>
自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>アンケート結果から、子どもたちは「登園の楽しみ」「主体的な遊び」「自分の思いを伝えようとする姿」「感動する心」「他者への思いやり」といった情緒面や社会性において、保護者の100%が肯定的に捉えており、重点目標としてきた“主体的に遊び、豊かに心を動かす子ども”の育ちは十分に達成されているといえる。また、「自分でやろうとする姿」「話を聞こうとする態度」「興味をもって行動する姿」も90%以上と高い評価であり、主体性や探究心の芽生えが着実に育まれていることがうかがえる。一方で、「あいさつ」や「友達や物を大切にする」など生活習慣・人との関わりに関する項目では評価がやや分かれ、特にあいさつでは18%が「そう思わない/あまりそう思わない」と回答している。このことから、日々の生活の中で周囲への意識を高め、社</p>

	<p>会的な振る舞いがより自然に身につくような働きかけが、次年度の課題として挙げられる。</p> <p>次年度は、これまで十分に育ってきた“主体性・興味関心・探究心”を引き続き大切にしながら、対人関係や生活習慣に関わる場面をより丁寧に支援し、子どもたちが安心して人と関わり、心地よく社会性を育ていける環境づくりを重点的に進めていきたい。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>子どもたちの主体的な遊びや興味・意欲の育ちは十分に達成されている一方、あいさつや物の扱いなど生活面ではばらつきが見られた。次年度は、主体的な遊びを大切にしながら、その日常の中で自然に社会性が育つよう、保育者の関わり方や場面づくりを工夫し、思いやりや基本的な生活習慣が身につく環境へと改善していきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>子どもたちは本来、あいさつを交わす力や意欲を十分に備えていると考えている。あいさつが習慣として身についていくためには、家庭での日常の姿が大きく影響するため、大人が手本となる行動を重ねることが大切である。言葉づかいや社会のルールを守ることとても大切であり、それは家庭での躾も重要である。今後も、園と保護者がより協力し合い、子どもたちがこれから生きていく上での基本をしっかりと身につけられるようにして行ってほしい。また、園で色々な遊びや経験をしている様子がとてもよく伝わってきた。</p>

(2) 幼保小の架け橋プログラムの推進に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・翔鸞小学校 1 年生と年長児で、教育課程に沿って年間を通して幼小交流を実施する。(管理職、担任同士で連携を密にとる) ・翔鸞小学校で毎週火曜日に行われるロング昼休みを活用して、小学校の校庭を園児が自由に使わせていただいたり、幼稚園の園庭を自由に 1～6 年生の小学生が使って遊んだりする中で、自然に幼児と小学生が関りをもてる場面を設けていく。 ・1 年生担任と幼稚園が連携を取り、スタート期に幼稚園の担任が朝休みの時間に出前保育に行き、子ども達との交流を図る。4 月初旬に幼稚園と小学校 1 年生の担任、教務主任とで年間計画を立てる。この取組を整理して幼小合同研修を行うことで、幼児期の子ども達の育ちや就学後の子ども達の姿や育ち、教師の指導について共有し、それぞれの学校・園での指導に生かす。 ・幼稚園が 1 週間公開保育を行い、好きな時間帯に保育を見に来ていただく日を設ける。 ・今年度は生活科と図画工作の教科学習の中で交流活動を充実させながら、教員同士の連携、接続を図っていく。
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間計画の作成および定期的な小学校との打ち合わせ ・スタート期に幼稚園の教員が 1 年生の教室に出向き、出前保育を行う。 ・小学校や保育園からの幼稚園の研究保育への参加 ・授業参観などの学校行事への参加 ・スタートカリキュラムにかかわる夏季幼小合同研修会の実施 (夏季休業中) ・アンケート項目【連携・接続】・幼稚園は小学校や中学校、大学とよく関わっていると思う ・小学校との交流、連携は子どもの育ちにつながっている

<p>各種指標結果</p> <p>「幼稚園は小学校や中学校、大学とよく関わっていると思う」が「そう思う」が100%、「小学校との交流、連携は子どもの育ちにつながっている」は「そう思う・だいたいそう思う」が100%だった。</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>昨年度より、架け橋の取り組みの基盤が構築されてきたこともあり、翔鸞幼稚園と翔鸞小学校の子どもたち同士の交流、教員同士の合同研修会等が計画的に取り組めるようになったこと、また、その取り組みの成果を、機会あるごとに保護者にも具体的に伝えることができたことが成果と考えられる。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>架け橋期のカリキュラム作成を進めていけるように、今年度の成果と課題をまとめていきたいと考えている。</p>
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <p>指標の変更は行わないが、今年度から給食交流が年3回になったり、4歳児が支援学級と交流をしたりなど、新たな取り組みが始まっている。今後も、互いの子どもたちにとってどのような育ちや、個々の安心感につながっているのか、また就学後の子どもたちの育ちについても検証していきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>今年度、架け橋の取り組みの中で、翔鸞幼稚園と相談しながら1年生の教室内の環境構成を考え直したことで、子どもたちが安心して過ごせるスペースができた。現在、来年度の就学相談を行っているが、保護者に1年生の教室を見せたら安心していただける様子が見られる。架け橋を通して子どもたちの安心感を育むことができていると考える。</p>

最終評価

<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p> <p>「小学校との交流・連携は子どもの育ちにつながっていると思う」は「そう思う」の回答が97%だった。</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>「小学校との交流・連携は子どもの育ちにつながっていると思う」に対して97%が「そう思う」と回答しており、交流の取り組みが子どもの安心感や意欲づくりに大きく寄与していることがうかがえる。これは、園が重点目標としてきた“幼保小の接続を見通した育ちの保障”が着実に成果として表れていると言える。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>今年度の取組成果を基に、小学校と共、それぞれの子どもたちの安心と育ちにつながる架け橋カリキュラムの作成を進めていきたいと考えている。また、近隣の保育園とのつながりも深めていけるように努力していきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>令和7年度、柏野小学校と翔鸞小学校の統合を経て、子どもたちは新しい環境にも少しずつ馴染み始めている様子である。来年度も、入学を迎える子どもたちが不安なく小学校生活をスタートできるよう、引き続き架け橋としての取り組みを充実させていくことを願っている。今年度、一年生と5歳児が様々な場面で交流してきたことで、教員同士の意識や子どもたちへの関りに変化が見られた。それが、就学に向けてのさらなる憧れにもつながり、1年生にとっては自信につ</p>

ながっている姿が見られた。給食交流の回数も増えてとても良い取り組みだと考える。今後、回数が増えていくことを願っている。

(3) 預かり保育に関して

具体的な取組

- ・長時間生活する預かり保育が、利用する子どもたちにとって安心して過ごせる場所になるように環境を整える。
- ・保護者にとって、安心して仕事ができるための預かり保育になるように安全に配慮して保育を行う。
- ・地域の方や大学生と連携をして、取組ができるように企画・調整していく。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・一人一人の家庭状況を把握し、安心安定を大切にした預かり保育での関りを検討していく。

【預かり保育】・なかよし広場（預かり保育）を安心して活用している ・子どもはなかよし広場で楽しく過ごしている

中間評価

各種指標結果

「なかよし広場（預かり保育）を安心して活用している」「子どもはなかよし広場で楽しく過ごしている」が「そう思う・だいたいそう思う」が100%だった。

自己評価

分析（成果と課題）

預かり保育を利用している子どもも、保護者も安心かつ、楽しく利用していただいているということが分かった。

分析を踏まえた取組の改善

引き続き、子どもも保護者も安心して利用していただけるように預かり保育を行っていきたい。また、3歳児の利用率が多くなってきているので、体力的な面も考慮しながら遊びの内容を考えていきたい。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

指標は変更しないが、更なる預かり保育の充実に向けて、より一層の工夫と、安心して遊びこめる環境づくり、地域にいらっしゃる方をゲストティーチャー（書道で遊ぼう・空手教室・リズムジャンプ・大学生との交流活動など）として招き、イベント等を預かり保育の活動の中に入れていく。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

預かり保育の利用率の高さに驚いた。昔は仕事をしている保護者のお子さんが預かり保育を利用することが多かったが、今は随分と変わってきているのだと感じた。これからの時代は、預かり保育の充実が求められているのだということが分かった。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

「預かり保育を安心して活用している」は「「そう思う」の回答が97%。22「子どもは預かり保育

で楽しく過ごしている」は「そう思う」に回答が94%。

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

預かり保育について、「安心して活用している」が97%、「子どもが楽しく過ごしている」が94%という結果から、多くの家庭が預かり保育の環境や保育者のかかわりを高く評価しており、子どもたちも安心して過ごせる場として定着していることがわかる。これは、園が取り組んできた環境づくりや保育者の丁寧な関わりが、子どもの安心感と楽しさにつながっている成果といえる。

次年度は、子ども一人ひとりの様子をより丁寧に把握し、不安や戸惑いが生まれやすい場面への支援を強めていく必要がある。また、保護者とのコミュニケーションをさらに充実させ、預かり保育の過ごし方や子どもの姿がよりわかりやすく伝わるよう工夫することで、より一層信頼される預かり保育の運営につなげていきたい。

分析を踏まえた取組の改善

預かり保育は概ね安心して利用され、子どもたちも楽しく過ごせているが、新入園児や新たに迎えるにあたり、個々の不安に寄り添う配慮をより丁寧にしていく必要がある。あわせて、保護者に子どもの様子を伝え、安心感と信頼を一層高めていきたい。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

働く保護者が増加しているので、預かり保育が充実していくことは重要だと考える。しかし、学級閉鎖期間中は、できれば預かり保育の利用も控えていただけるようになると、感染拡大が抑えられるのではないかと考える。

(4) 子育ての支援に関して

具体的な取組

- ・週3回の未就園児対象の教育相談(たんぼぼ組)や満3歳児子育て支援クラス(いちご組・9月からは16時までの預かり保育開始)、園庭開放を継続して行う。
- ・毎月の教育相談や園庭開放の予定をホームページやInstagramに載せるだけでなく、お便りにして、児童館や図書館、小規模保育施設などに配布して情報発信を行う。
- ・PTAが主体となって「子育て語り合いサロン」を企画し、情報を発信する。
- ・子育てが困難とみられる保護者に対して支援する体制を作り、その困りの解決に向けて、専門機関を紹介し、幼稚園と共有していく。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・教育相談回数及び参加人数、参加者の声を拾い上げていく
- ・未就園児担当の子育てボランティアの方と管理職が週に一度、未就園児について話し合ったり、イベントの開催内容について考えたりする。
- ・アンケート項目【子育て支援】・保護者として子どものことを先生や職員によく話したり相談したりする

中間評価

各種指標結果

「保護者として子どものことを先生や職員によく話したり相談したりする」は「そう思う・だいたいそう思う」が100%だった。

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>キンダーカウンセラーさんが年間8回来園して下さることになり、子育てに対して不安な思いを抱えている保護者に対して、専門的な知見でお話を聞かせていただける機会ができたことも成果につながっていると考えます。現時点では、満3歳児子育て支援クラスの利用者が少ないため、多くの方に利用していただき、子育て支援につながるようにしていきたいと考えています。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>キンダーカウンセラーさんとの連携や教員とのカンファレンスを充実させ、子育て支援につなげていく。また、満3歳児子育て支援クラスについての取り組みを地域の方に周知していただくよう、たんぽぽ通信やSNS等を利用して発信していく。</p>
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <p>指標の変更は行わないが、子育て支援の取組を継続し、保護者の支援を継続してしっかりと行っていく。また、支援の必要な子どもに対する子育ての不安などは、キンダーカウンセラーさんにつなげたり、教員がキンダーカウンセラーさんとの連携をとったりしながら保護者支援をおこなっていききたい。必要があれば専門機関につながっていけるようにサポートしていく。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>若い保護者さんは、Instagramをよく利用しているので、翔鸞幼稚園で行っている子育て支援等を発信していくことは必要だと感じる。まずは、未就園児の方に多く来ていただけることが大切であると考えます。</p>

最終評価

	<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p> <p>「先生は、保護者の話をよく聞いてくれる」「保護者として、子どものことを先生や職員によく話したり相談したりする」の項目では「そう思う」「だいたいそう思う」が合わせて100%だった。子育て支援（未就園児親子クラス たんぽぽ組）には10組程の親子が登録し、利用していただいている。また、月ごとに様々なイベントを取入れ、中でも月に一度「子どもの発達を促す体遊び」を講師を招いていることで、興味をもって参加していただいている。「満3歳児子育て支援クラス いちご組」には、今年度は1名の満3歳児が利用していた。</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>評価結果より、園と保護者との信頼関係は十分に築かれており、日頃の丁寧なコミュニケーションが高く評価されていることが分かる。また、「たんぽぽ組」では10組が登録し、講師を招いた体遊びなどの企画が参加意欲につながっていることから、子育て支援は一定の成果を上げているといえる。一方、満3歳児子育て支援クラス「いちご組」の利用は1名にとどまり、魅力が十分に周知されていない可能性も考えられる。次年度は、これまで高く評価されてきた保護者支援を継続しつつ、子育て支援クラスの周知や参加のしやすさの工夫をさらに進め、より多くの家庭にとって利用しやすい環境の充実を図っていききたい。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>保護者との信頼関係を大切にしながら、子育て支援クラスの魅力や参加しやすさがより伝わるよう周知方法を工夫したい。あわせて、地域の家庭が気軽に参加できる環境づくりを進め、支援の場をさらに充実させていく。</p>

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 園が大切にしている保育のあり方や、預かり保育・子育て支援の取り組みについて、より多くの方に知ってもらえるよう、外部への情報発信を積極的に進めていくことも重要である。子育て支援の取り組みとして学校運営協議会のメンバーでもある講師の先生が、月に一度行っている「子どもの成長発達を促す体遊び」では、保護者の過干渉が子どもの成長発達に影響を及ぼしている一面が伺えることが分かってきた。遊びを通して、本来子ども自身も持っている力で成長していくことの大切さを伝えていく場にしていきたいと考えている。
---------	--

(5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

具体的な取組 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々との交流を主とした活動を取り入れて年間指導計画を作成する。 ・地域の方々の意見を聞き、その意向を反映した取組を計画する。
(取組結果を検証する) 各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会や地域の各種会合において、地域の方々の意見を聞く。 ・アンケート項目【連携・接続】・幼稚園は地域の方と行事や取組でよく関わっていると思う

中間評価

自己評価	各種指標結果 「幼稚園は地域の方と行事や取組でよく関わっていると思う」が「そう思う・だいたいそう思う」が100%だった。
	分析（成果と課題） 「苗屋さん」や「PTA夏祭り」に地域の方に来ていただき、子どもたちと触れ合っただけなことや、地域の様々な行事にも参加することができ、高評価を得ている。子ども達にとっても保護者にとっても温かいつながりの生まれた取組となった。
	分析を踏まえた取組の改善 働き方改革も意識しながら、地域の方と連携した行事について取り組んでいく。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 今後も、地域の方々とのふれあいを通して、子ども達の育ちにつながっていくように、地域との連携内容を考えていく
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 今年度、柏野学区と統合したので、色々な地域の行事を一緒に行うようになってきている。その中で、翔鸞幼稚園の存在を伝えることで、園の取り組みを周知していただけないかと考える。地域と連携していきながら、翔鸞幼稚園をアピールしていく場として活用していくことも大切だと考える。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果 「幼稚園は地域の方と行事や取組でよくかかわっていると思う」「子どもは、幼稚園の取組を通して、地域や地域の人に親しみをもっている」の項目の回答は「そう思う」「だいたいそう思う」が100%であり、いずれも「そう思う」が97%だった。
--

自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>地域と園との関わりについて、保護者の「そう思う」「だいたいそう思う」が100%、そのうち97%が「そう思う」と回答しており、園の取組が地域に開かれ、子どもたちが地域の人々に親しみをもって関わっていることが高く評価されている。この結果は、園行事や交流活動が地域とのつながりを自然につくり、子どもたちの社会性の育ちにも良い影響を与えていることを示している。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>地域との関わりが成果を上げている一方で、次年度は多様な人々との交流機会を広げ、地域資源を生かした活動をさらに充実させることが課題となる。また、地域の方が関わりやすい環境を整え、子どもたちがより豊かな体験を積めるようにしていきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>子どもたちのためになることであれば、できる限り力になりたいと考えている。しかし、地域の方々も高齢化していくため、新たな方々にも協力していただけるように運営していくことも必要である。</p>

（6）教職員の働き方改革について

<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員一人一人が勤務時間を意識し、保育終了後の時間を計画的に、有効に使い、教材研究や事務処理を行う
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週水曜日は「ノー残業ディ」に位置づけ、定時に帰宅するように努める。 ・電話対応時刻を午後6時までとする。 ・帰宅を促し、午後7時頃施錠できるように努力する。 ・年休や割振り、回復が取れるように長期休業中の取組を精選する。 ・校務支援員と連携を図りながら、教頭や担任の仕事の一部を補助してもらいやすいよう計画する。
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・超過勤務の時間数を把握し、月40時間以内におさまるように意識していく。 ・年休の取得状況（年休を5日はとる）を確認していく。

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・超過勤務時間は、管理職2名が40時間を超えている。 ・年休は、ほぼ予定通りの消化できている。
<p>自己評価</p> <p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務支援員、学び支援員は担任の負担軽減につながっている。 ・管理職の超過勤務時間が減りにくいことが課題と考える。
<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理職自身の意識改革が必要である。仕事の優先順位や段取り等を見直しをもって行っていくことが必要である。

	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>「超時間勤務の時間数を把握し、月40時間以内におさまるように意識していく」を実践していくことを目標とする。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>園庭の木の剪定や夏ミカンの収穫など、園の教職員だけで取り組むことが難しい場合は、地域で協力していくので声をかけてほしい。</p>

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>超過勤務に関しては月40時間以上の勤務者が4名中2名。年休は、ほぼ予定通りに消化している。校務支援員との連携により、かなりの働き方改革につながっていると考える。</p>
自己評価	<p>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>超過勤務が発生する際には、その日に必ず対応しなければならない業務以外に、後日でも進められる内容が含まれている場合がある。自分自身で業務の優先度や流れを整理し、見通しをもって仕事に取り組むことが必要だと感じている。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>今後は、日々の業務について「その日のうちに対応すべきこと」と「後日でも進められること」を明確に区別し、優先順位を意識して取り組むようにする。業務全体の流れを事前に整理し、見通しをもって作業を進めることで、無駄な残業を防ぎ、効率よく仕事を進められるよう改善していきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>地域で取り組めることは、協力していきたいと考えているので遠慮なく相談してほしいと思う。</p>